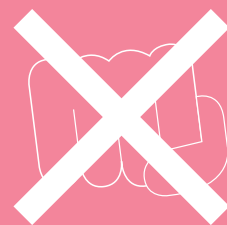


特集

不当な暴言・暴力から 組織的に身を守る



地域保健従事者は、その職務特性から潜在的に、面接や家庭訪問などで暴言や暴力にさらされる可能性が高い。一方で、従事者は暴力に遭っても自分の胸のうちに収める傾向が強いため、実態が反映されない状況があった。防衛的にならずに保健師らしい仕事ができるためにも、組織的な安全管理体制が求められる。本号では、「暴力防止マニュアル」の改訂をはじめとする近年の取り組みとその成果を報告する。

- 住民からの暴力防止に組織として取り組むことの重要性
「暴力防止マニュアル 第2版」の作成を通して
- 暴力被害防止に向けて組織的に取り組む
東京都新宿区からの報告
- 地域保健師が負うリスクと暴力
法的観点から見た保健師の仕事の特徴
- 保健師の専門職意識とアウトリーチ活動における暴言・暴力被害
精神科医の視点から
- 地域保健従事者に対する住民からの暴力被害と対応
実態調査の結果から
- 的確なリスクマネジメントを導く教育研修のために
「新任期～中堅期研修用教材」活用のすすめ
- 保健師のクレーム対応のあり方と組織としての対応
熟練保健師がもつ経験知の質的な分析から